☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

（別紙４）

［認知症対応型共同生活介護用］

１．　評 価 結 果 概 要 表

作成日　平成２０年５月２６日

【評価実施概要】

事業所番号	872000906		
法人名	東成産業株式会社		
事業所名	グループホームいちさと		
所在地	つくば市柳橋１２２－８ （電　話）029-836-2000		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町１９１８茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成19年11月6日	評価確定日	平成20年5月26日

【情報提供票より】（　１９年１０月９日事業所記入　）

（１）組織概要

開設年月日	平成 １６ 年 １ 月 ７ 日		
ユニット数	２ユニット	利用定員数計	15 人
職員数	１２ 人	常勤 １０人，非常勤 ２人，常勤換算 人	

（２）建物概要

建物構造	木造瓦葺き平屋 造り
	１階建ての １階部分

（３）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	35,400 円		その他の経費（月額）	管理費２，０００円
敷金	有（７０，０００ 円）		水道光熱費５５０円／日	
保証金の有無 （入居一時金含む）	無		有りの場合 償却の有無	有 ／ 無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,300 円			

（４）利用者の概要（　１１月６日現在）

利用者人数	13 名	男性	9 名	女性	4 名
要介護１		要介護２	3		
要介護３	5	要介護４	3		
要介護５	2	要支援２			
年齢	平均 75.3 歳	最低	56 歳	最高	94 歳

（５）協力医療機関

協力医療機関名	筑波記念病院　室生内科医院　広瀬歯科医院　ホームオンクリニック

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホーム名である「いちさと」のいつも笑顔を心がけ地域や家族の交流を大切に些細な事でも悩み・心配事を話し合い、共に生活していく中での自分らしさを大切にをモットーに職員は明るく、３年間の実績を有効に活用しており、近隣の住民が気軽に遊びに来るなど利用者と楽しく交流している。

ホームの畑も共有する等、有利な自然環境や立地条件、地域の発展性を活かしたケアサービスを実施し、利用者の楽しみの年間行事も多彩である。

連携の医療機関は２４時間対応しており、利用者・家族共に安心できるホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4） 前回の外部評価の結果をホームの入り口に掲示し、利用者の家族や来客が見ることができるようにしている。 今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4） 管理者が自己評価を行い、課題等について職員に周知するとともに、課題の改善に取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6） 民生委員や地域の代表者、市職員、家族や利用者の代表を委員とする運営推進会議を定期的に開催している。 運営推進会議では、自由に意見交換を行い、意見の内容を職員間で検討し、サービスに取り入れている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8） 苦情受付に関する窓口や担当者の体制を整備するとともに、市の福祉事務所等の苦情受付機関を重要事項説明書に明示している。 また、運営推進会議において、意見や要望を聴取している。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3） 周辺地域で新しく住民となった親子がホームに遊びに来るなど、利用者と交流している。 また、散歩等で外出したときには、積極的に挨拶している。

2.　評 価 結 果 （詳細）

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームでは、その人らしさを大切にした生活を送れるよう、地域や家族との交流や悩み事や心配事を話し合える場作り、自分らしい暮らしを支援できる体制作りを理念に掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの入り口や職員の更衣室に理念を掲げ、共有するとともに、日々の介護で実践できるよう取り組んでいる。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	周辺地域で新しく住民となった親子がホームに遊びに来るなど、利用者と交流している。 また、散歩等で外出したときには、積極的に挨拶している。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者が自己評価を行い、課題等について職員に周知するとともに、課題の改善に取り組んでいる。 前回の外部評価の結果をホームの入り口に掲示し、利用者の家族や来客が見ることができるようにしている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員や地域の代表者、市職員、家族や利用者の代表を委員とする運営推進会議を定期的に開催している。 運営推進会議では、自由に意見交換を行い、意見の内容を職員間で検討し、サービスに取り入れている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議のほか、利用者の状態や状況等の報告を定期的に行っている。		
4．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時に利用者の生活状況を報告するとともに、「いちさとだより」を発行し、生活の様子や行事の案内、利用者の写真等を送付している。 また、金銭管理の状況を毎月報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付に関する窓口や担当者の体制を整備するとともに、市の福祉事務所等の苦情受付機関を重要事項説明書に明示している。 また、運営推進会議において、意見や要望を聴取している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者が馴染の職員に支援を受けられるよう職員の異動に配慮している。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規採用の職員は、所内研修及び先輩ヘルパーとの実施指導を行っている。 また、つくば市内の同業者間のグループワーク研修やＫＪ法（創造性開発の技法）を取り入れた支援の実践研修等に職員を受講させている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	つくば市地域密着型サービス連絡会の研修会に参加するなど、勉強会や交流を図っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 **１．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応**					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に来所したり、体験入居を受け入れるなど、ホームの雰囲気や他の利用者に馴染めるよう配慮している。		
２．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の出来る事や得意な事を把握するとともに、園芸や農作業、掃除等の得意なことを共に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者がどのように生活したいかを本人や家族から聞き取りを行うとともに、希望に沿った生活が送れるよう園芸等の道具を提供している。	○	意見や意向、希望の聴取が困難な利用者や家族等のコミュニケーションのとり方等について、職員間で検討することを提案する。
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	本人及び家族・利用前の事業所等から聴き取りを行い、介護計画を作成している。	○	介護計画の作成にあたり、計画作成担当者の新規採用や職員の意見、アイデアが生かせるよう改善に取り組んでいるので、利用者にあわせた、介護計画の作成の取り組みを期待する。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の実施期間を定めているが、期間や状態の変化に応じた見直しを実施するには至っていない。	○	介護計画の見直しにあたり、介護計画の期間や利用者の状態の変化に応じた見直しを行うことが望まれる。 また、内容の変更時には、本人や家族、職員等と話し合うなど、利用者に沿った介護内容の充実を図ることを期待する。
3．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望等に応じた支援に取り組んでいるが、事業所の多機能性を生かすまでには至っていない。	○	運営推進会議等を通じて地域住民のニーズ等を把握するとともに、ニーズへの対応を検討することを期待する。

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関のほか、利用者のかかりつけ医に診察を受けることができる。 協力医療機関からの往診が月２回あるほか、診察時には、医療に必要な書類を提示し、医師から必要な指示・指導を受けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の対応について、本人や家族、医師と話し合いを行っている。 利用者が重度化した場合は、協力医療機関に依頼できるよう連携している。	○	重度化や終末期のホームの対応を、職員や関係者等と検討し、方針を作成するとともに、方針に沿った支援することを期待する。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **１．その人らしい暮らしの支援** **（1）一人ひとりの尊重**					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者一人ひとりの誇り・尊厳を大切にし、利用者の誇り等を損ねるような言動を行わないよう職員相互で注意し合っている。 また、プライバシーの確保に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常のスケジュールを作成しているが、利用者一人ひとりのペースで、自由に生活できるよう配慮している。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの状態を把握し、おかゆや刻み食を提供するとともに、色鮮やかな食器を使用するなど、楽しく食事が出来るよう工夫している。 また、職員は利用者と一緒に食事の準備や後片付けを行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日を決めているが、入浴順番等の希望を聞いている。 また、入浴には利用者の体調を十分に配慮している。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や得意なことを活かし、掃除や畑仕事等が出来るよう場面づくりを行っている。 利用者はホーム周辺の親子との交流を楽しみにしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員はレクリエーションの時間に、散歩や日光浴などを行い、利用者が戸外に出ることができるよう支援している。	○	利用者の症状や介護度の進行に伴う、外出機会が軽減する利用者への支援方法を検討することを提案する。
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	事故防止のため浴室の鍵を掛けているが、玄関や居室・共用部分の鍵を掛けないよう取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	職員と利用者による防災訓練を年２回、夜間に実施しているが、消防署や近隣住民と連携した訓練を実施するには至っていない。	○	消防署や運営推進会議で協力を働きかけるなど、各機関等と連携し避難訓練等を実施することを期待する。
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事の摂取状況や水分摂取状況のほか、体重の増減、排尿量・回数を記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間となるキッチンと食堂が一体となっており、利用者は調理の匂いなどの生活感を感じるとともに、職員も利用者の生活状況を把握することが出来る。 部屋は自然の光が差し込み、窓からの外観も良く、居心地良い環境となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、畳やベットを置いても充分な広さを確保するとともに、衣類や寝具等を収納するロッカーを設置している。 自宅で使用していたタンス等の馴染の物品を自由に持ち込んでおり、躓きやぶつかり等で怪我等しないよう配慮している。		

※ ▒ は、重点項目。

※ ＷＡＭＮＥＴに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式１）を添付すること。